



マスコットキャラクター
「たねっこ」

種まき通信

第33号 編集・発行：田根地区・地域づくり協議会（愛称：種まき塾）
2021.01 〒526-0273 長浜市高畑町 316-1 田根まちセン内 TEL74-1450

“森のほとりで職人の技を学ぶ” 体験型交流事業

昨年十一月、“森のほとりで職人の技を学ぶ”体験型交流事業を二回に亘って開催しました。

この事業は、一般財団法人地域活性化センターの移住・定住・交流推進支援事業助成金を活用して実施しました。

職人の技術を学ぶ「体験実習」やチップボイラーを介した「環境学習」などを通じて、都市住民と地域住民との交流を図り、交流人口・関係人口の創出によって移住や定住の促進につなげることを目的としています。当初は八月に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催時期を一月に遅らせるとともに、募集人数や日程を大幅に縮小しました。

また開催中は、検温、消毒、



検温、消毒をする参加者

手洗い、マスク着用など感染防止対策にも万全を期しました。
第一回交流事業は十一月二日から八日まで、二人の参加者

で実施しました。

参加者はいずれも二四歳。一人は大学院生で、もう一人はなんと俳優さんです。

NHKの連続ドラマ「いだてん」にも出演したことがあり、CMも自ら演出し出演もしているそうです。小さいながら事務所持っていて、「将来、事業が軌道にのれば田舎暮らしもありかなあ」などと期待を持たせる発言もあり、貴重な関係人口の一人になりそうです。

今回の体験実習では、茅葺き屋根の構造や性質、特徴などを



茅葺き作業の体験実習



代表理事による講演会

学び、昔から伝わる道具を使って実際に茅葺きの体験をしてもらいました。

実は参加者の一人の大学院生は、茅葺き屋根を修士論文のテーマにされていて、興味深く実習を行っていました。

体験実習の後は講演会です。茅葺き作業の講師や田根に移住された方、そして地協の代表理事から田根の文化や歴史、そして魅力や課題について話をしていたきました。



また、NPO法人湖北エコ村デザイン協会の代表からは、チップボイラーを介して環境問題についてお話をしていたきました。

講演会の後は芝生の上でまったりとした交流会。



チップボイラーの前で環境について学ぶ

都会の若者たちは芝生に寝転がって青空を眺めていました。若者の眼に田根がどのように映ったのかは分かりませんが、今後、関係人口として交流が続くことを願っています。

第二回交流事業は、一月二日から二三日までの二泊三日で開催しました。

参加者は四名。すべて学生さんですが、二人は米国とモロッコからの留学生、他の二人は帰国子女です。

国際色豊かな参加者の会話は日本語混じり英語。予期せぬ国際交流の場になりました。

第二回の体験実習は、シロアリで腐食した床板の張り替え作業で、かなり本格的な大工仕事に取り組んでいたきました。参加者四名の内三名が女性で心配しましたが、職人さんの指示のもと大活躍でした。

空き家を見たとき、いつも気になるのは床です。シロアリの被害でブカブカになり、畳だけで持ちこたえているような床を何度も見てきました。

しかし、こんな床も職人さん



慣れない手でバール振るう参加者

のアドバイスがあれば、経験のない学生さんでもそれなりに改修ができることは、主催者にとっても新鮮な驚きでした。

体験実習の後は、改修を終えたばかりの和室で講演会です。今回は、大工職人さんに加え、慶應義塾大学からお越しをいただいた小林博人教授からも講演をしていただきました。

小林教授は、京都大学、同大学院、ハーバード大学大学院で建築・都市設計を学ばれています。不思議な縁で地域づくり協議会を設立した平成一九年から田根でマサチューセッツ工科大学とともにワークショップに取り組んでいた

います。ある意味、田根の抱える課題や魅力を客観的、俯瞰的に最も御存知な方かもしれない。そんな教授の講演会は、和やかな雰囲気にも包まれていました。



建築家でもある小林教授の講演会(手前右側)

今回は、地域との交流会を様々な場面で行いましたが、交流を通して感じたことは、地域に加え大学やNPOなど様々な主体がそれぞれの特徴や得意な分野を持ち寄って、総合力



キテハ食堂の中庭をお借りして交流会

でまちづくりに取り組むことの重要性です。一つ一つの主体では限界があっても、様々な主体が有機的に結びつくことで相乗効果が生まれ、その可能性が何倍にも広がるということを感じました。

第二回交流事業では、最終日に「一日回峰行」が開催されたため、参加者全員が小谷山に登り、絶景の岩場から田根を一望しました。



出発前の参加者。一人多いのは特別参加の慶応高校生

また、近江孤蓬庵にも立ち寄り、庵主さんから丁寧な説明をしていただきました。

通訳を通してなので、田根や日本の文化がどこまで伝わったかわかりませんが、モロッコからの留学生はかなり関心を持って聞いていました。

最後には、東京から力丸町に移住され、購入した空き家をリノベーションされた方のお宅を拝見し、移住後のイメージを体験してもらいました。

移住者の方は、以前、南アフリカで暮らしていたこともあ



庭園を眺める参加者

り、モロッコにも行ったことがあるそうで、留学生との会話が弾んでいました。



東京から移住された方との交流

今回の体験型交流事業は、新型コロナウイルスの影響で日程や規模の縮小を余儀なくされましたが、得るものもたくさんあり、今後の活動に反映できればと思います。

具体的に大学との関係では、新型コロナウイルスがなければ昨年四月に実施予定でした「豪州メルボルン大学&慶應義塾大学による田根ワークショップ」や「東京大学フィロドスタディ型政策協働プログラム」の受け入れがあります。



2020.2 豪州から留学中のナンシーとの打合せ

また企業との関係では、新型コロナウイルスの影響で急速に拡がっている「サテライトオフィ

ス」や「テレワーク」、「ワーケーション」などの拠点として空き家の活用を推進し、課題である空き家を地域の魅力に転じるような事業ができればと思います。

働き方の多様化によって、東京から地方への流れが生まれています。人材派遣の大手パソナが本社機能の一部を移転させた淡路島では、少子化によっていったん閉校した学校の再開を検討しています。

また、徳島県神山町では、NPOによる地域活動が功を奏し、古民家を改修したサテライトオフィスに入居したIT企業が、地域と一っしょに高等専門学校の開校を目指すまでになっています。

この学校は「神山まるごと高専」と名付けられました。何がまるごとかという点、学校だけでなく町全体がキャンパスだという考え方です。二〇年にも及ぶ地域活動が実を結んだ素晴らしい事例であり、まさに田根が目指す「知の拠点づくり」のお手本です。

「知の拠点づくり」構想

は、地協の設立当初から退官されるまで、毎年田根を訪れていたマサチューセッツ工科大学の神田教授が、「田根は屋根のないキャンパスだ」と言って西池のほとりで野外講義をされたのがきっかけです。



2011.8 西池でMIT生に行われた神田教授の野外講義

今後もうこうした大学や企業との協働による地域活動を積極的に進めるため、田根でも地域おこし協力隊の受け入れができないかと思っています。地域おこし協力隊とは、都市圏在住の若者が市からの委嘱を受け、地域活性化の支援を行う人たちのことです。

長浜市でも六年前から取り組んでいて、都会の若者が農林業など様々なテーマで地域おこしにチャレンジし、退任後はほとんどの人が市内に定住されているそうです。

昨年末には、観音ガールと呼ばれる協力隊の女性が木尾町で講演をされています。



2020.12 観音ガール對馬さん

令和三年度には第三期生の募集が想定されます。

田根に暮らしながら、都会で育った若者の感性を田根の活性化に活かしてもらいたいと思います。

地域づくりは、種をまいて一〇年で芽が出て、二〇年でやっと花が咲くそうです。タネから花咲くまで息の長い活動が求められています。